

## ヨーロッパの福祉事情

豊橋市議会欧州都市行政調査派遣団の一員として、9月26日よりヨーロッパ各地で精力的に勉強させていただきました。（詳細はホームページに順次掲載中）

特にロンドンの高齢者福祉とフランスの少子化対策について報告させていただきます。こうした場を与えていただいた市民の皆様深く感謝し、今後の議会活動に生かしてまいります。

### ロンドンのエイジコンサーン

ロンドン郊外エンフィールド地域のエイジコンサーン（高齢者を対象としたボランティア団体）を中心とした高齢者福祉の展開について学びました。

イギリスでは「パートナーシップ」という言葉の下で、高齢者福祉など行政が担ってきた分野に、民間ボランティアセクターが機能して取り組んでいます。

その歴史も古く、第二次世界大戦後の混乱の中で高齢者の生活の援助をきっかけにできたボランティアであり、今ではイギリスだけでも900もの支部があるといえます。日本でいう社会福祉協議会でしょうか。

「老後の生活をいかに豊かにするのか」という課題に「高齢者に優しい政府」の実現をめざし、各地域で独立し、地域ニーズに応じて福祉サービスを提供している。こうしたニーズを調査し研究し、その実現のために政府・議会。地方政府に要請したり交渉したり活動は活発です。

特に活動内容としては

- ・老人問題に関するあらゆる情報提供
- ・ランチクラブの運営やランチ配達サービス
- ・雑誌やパンフレットなど情報提供出版
- ・病院や施設への送迎サービスや緊急時の駆けつけサービス
- ・介護者やヘルパーの講習や訓練
- ・中高齢者のレクリエーションやレジャー活動など

こうした活動のベースにイギリス社会に根付くボランティアを自由社会を保障するための基本的な権利で

あるという考え方が確立されています。逆に日本における自助・共助・公助を成り立たせるベースが脆弱ではないかと痛感しました。

### フランスの少子化対策

フランス、オールセン（県）の家族手当公庫で「フランスの少子化対策について」調査研究しました。

フランスでは合計特殊出生率が1.94と先進諸国の中では著しく高く、家族手当、保育サービス、出産後の就労など多岐にわたって、働く夫婦を支援する制度が充実しており、欧州の中でも高い出生率につながっています。

女性が働きながら子どもを育てるのか、子どもを預けて仕事を続けるのか、自由に選択できるのです。

また婚外子の子どもの割合が約5割に達していて、結婚観、家庭観が違うなかにもフランスでは「辛いところに手が届く」福祉がすでに現実のものとなっているさまを垣間見ました。

妊娠&出産手当（妊娠5ヶ月～出産）……すべての費用について保険適用。乳幼児手当（妊娠5ヶ月～生後3歳）……子ども1人あたり約23,000円/月、家族手当……子ども2人で約16,000円/月、1人増えるごとに約20,600円/月、家族手当補足……子ども3人以上の1人ごとに約15,000円/月など、これらが複合的にフランスのV字型出生率回復につながっているさまを見せつけられました。

地域や職場に大小さまざまな保育施設があるほか、「認定保育ママ」というベビーシッターを家庭で雇う制度も普及し、育児と仕事を両立しやすい環境が整っているために、フランスでは育児休業を終えて復職した母親の約6割がフルタイム（終日）の勤務を選んでいくといえます。

「子どもが生まれるということは楽しい夢ですよ。その事は国の興亡のカギとなるはずですよ」と担当者はキッパリ。（END）